

特集

# 市営バスの民間移譲について

詳細 交通部総務課 ☎55-4141

苫小牧市営バスは平成23年度で事業を廃止し、平成24年4月から全路線を民間事業者へ移譲することとしました。民間移譲に至った経過や民営化後について説明します。



## 基本方針に従い民営化を進めます！

### 市営バス民営化の基本方針

- こんな民間バス事業者に引き継ぎます
- 1 資本金、経営力、事業実績がある
  - 2 安全で十分な運行体制の整備ができる
  - 3 公共交通への理解、利用者の利便性の確保ができる
- これまでの路線やサービスは継続します
- 1 路線や運賃などは継続します
  - 2 高齢者優待や障害者の無料制度、特別支援学級への通学補助制度など各種サービスは継続します
  - 3 市営バスで発行した定期券やトマッピーカードなどは継続して利用できます

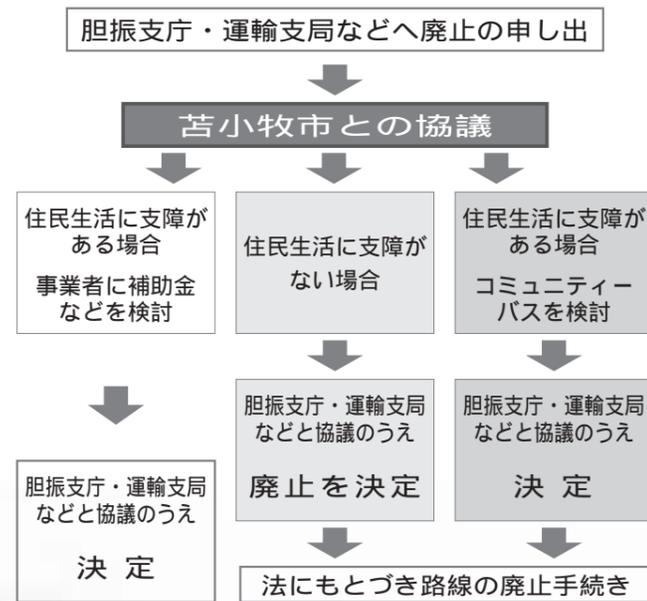
民営化後は市民サービス充実のために市・市民・バス事業者からなる「協議会」を作ります

市では昨年、「市営バス民営化の基本方針」を決定し、バス事業の移譲にあたっては、公共交通への理解と利用者の利便性が確保される会社を選定することにしています。また、選定事業者とは路線や運賃、各種無料制度の継続などについて協定を締結します。さらに、民営化後のバス路線の確保やサービスの充実などについて協議する場として、市とバス事業者、市民などの関係者による「協議会」を設置し、皆さんの意見を取り入れながら民営化を進めます。



## 市民の足は守ります！

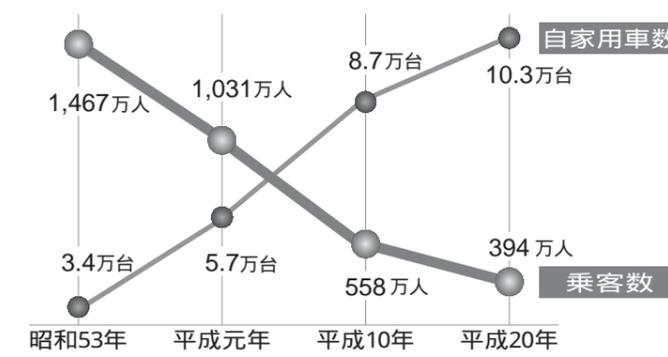
### バス路線廃止の手続き



民間事業者だと「市民の足を守れるか心配」、「赤字路線は一方的に廃止するのではないか」という声があります。路線の廃止手続きは、道路運送法で決められており、廃止予定の1年前に胆振支庁と室蘭運輸支局へ申し出、6カ月前に室蘭運輸支局へ届け出が必要で、1年前の申し出により、胆振支庁ではその旨を市に伝え、意向を打診することになっています。路線の廃止は市民生活への影響の有無により、市が判断し、路線の存続方向を示した場合は、市と事業者との個別協議をし、

補助金などの公的支援により路線は確保します。地域の皆さんと協議のうえ、廃止が市民生活に支障ないと判断した場合は、路線は廃止になります。路線としての維持は困難であるが、市民の生活交通確保のためにコミュニティバス運行などの代替策を講じる必要がある場合には、「苫小牧市広域公共交通会議」の中で検討を行い、何らかの代替策を実施します。いずれにしても、市民の生活交通確保の立場から市民の意見を十分に聴いて、市が責任を持つて対応します。

### 市営バスの乗客数の推移

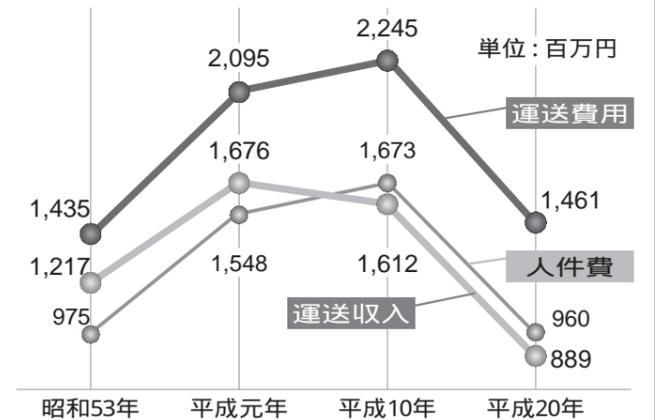


市営バスは、昭和25年8月に営業を開始して以来、市民の足として生活を支え、身近で信頼のある公共交通機関として事業を展開してきました。しかし、自家用自動車の急激な普及と30年間で3倍（や週休2日制の定着などにより、年間の乗客数は昭和53年度の1千467万人をピークに減少を続け、30年後の平成20年度には、394万人とピーク時の約27%、およそ4分の1になりました。

## 税金で補って運行しています

乗客数がピークの昭和53年度の赤字額は約2億円で、人件費は運送収入の範囲内でした。昭和54年度以降は、乗客数は減少しましたが、平成8年度までは2〜3年ごとの運賃改定により、一時、収入は増加となりました。しかし、平成8年度以降は景気の低迷や運賃改定によるバス離れを懸念して運賃改定を見送ったため、乗客数の減少とともに運送収入も減少しました。また、運送費用は人件費の増加とともに増え続けましたが、平成14年度からは一部路線運行の民間委託や正規運転手の嘱託

### 市営バス会計の推移



## 市民負担を減らし、市民の足を確保するために民間移譲します

路線バスは市民生活にとってなくてはならないものです。市民負担を少なくし、将来にわたって市民の足を確保していくために、平成24年4月からの市営バス民間移譲を決定しました。今後、約2年間をかけて、安全で安心な利用しやすい公共交通機関が継続されるよう、民営化に向けた準備をしっかりと行います。市民の皆さんのご理解をお願いします。

運転手への切り替えにより、人件費を削減し、運送費用が減少しました。現在も運送費用の削減を行っていますが、平成20年度の赤字額は約5億円で、これを税金で補って経営を続けている現状にあり、市民負担が大きくなっています。一方、運送収入を現状のままとして、南北海道の民間バス6社の平均費用単価で試算すると、約7千万円の赤字で済むことになり、路線によっては国や北海道の補助対象の可能性があるので、十分に経営が成り立つこととなります。

### 市営バスと民間バスの比較

項目	1kmあたり単価(A)	収支(A×B)	
市営バス	収入	321.41円	9億3,057万5千円
	経費	486.88円	14億0,965万9千円
	差し引き	-	4億7,908万4千円
民間バス (南北海道の民間バス平均)	収入	321.41円	9億3,057万5千円
	経費	345.20円	9億9,945万4千円
	差し引き	-	6,887万9千円

(B) 市営バスの年間走行距離 2,895,291km